



# Red Hat OpenStack Platform 13

## オーバークラウドのパラメーター

Red Hat OpenStack Platform オーバークラウドのコアテンプレートコレクションを  
カスタマイズするためのパラメーター



# Red Hat OpenStack Platform 13 オーバークラウドのパラメーター

---

Red Hat OpenStack Platform オーバークラウドのコアテンプレートコレクションをカスタマイズするためのパラメーター

OpenStack Team  
rhos-docs@redhat.com

## 法律上の通知

Copyright © 2021 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

本書は、Red Hat OpenStack Platform のオーバークラウドをカスタマイズするパラメーターについて記載します。本書は、『オーバークラウドの高度なカスタマイズ』ガイドと併せてご利用ください。

## 目次

第1章 オーバークラウドのコアパラメーター .....	3
第2章 ロールベースのパラメーター .....	6
第3章 デバッグパラメーター .....	7
第4章 カーネルパラメーター .....	9
第5章 CEPH STORAGE パラメーター .....	11
第6章 BLOCK STORAGE (CINDER) パラメーター .....	15
第7章 IMAGE STORAGE (GLANCE) パラメーター .....	18
第8章 ORCHESTRATION (HEAT) パラメーター .....	20
第9章 DASHBOARD (HORIZON) パラメーター .....	22
第10章 BARE METAL (IRONIC) パラメーター .....	23
第11章 IDENTITY (KEYSTONE) パラメーター .....	27
第12章 KEY MANAGER (BARBICAN) パラメーター .....	31
第13章 SHARED FILE SYSTEM (MANILA) パラメーター .....	33
第14章 MESSAGING パラメーター .....	34
第15章 NETWORKING (NEUTRON) パラメーター .....	35
第16章 COMPUTE (NOVA) パラメーター .....	41
第17章 CLUSTERING (SAHARA) パラメーター .....	49
第18章 OBJECT STORAGE (SWIFT) パラメーター .....	50
第19章 TELEMETRY パラメーター .....	52
第20章 時刻に関するパラメーター .....	56



## 第1章 オーバークラウドのコアパラメーター

パラメーター	説明
<b>AddVipsToEtcHosts</b>	ネットワーク別の仮想 IP を各ノードの <b>/etc/hosts</b> に追加するには、True に設定します。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>CloudDomain</b>	ホストに使用する DNS ドメイン。これは、アンダークラウドで設定されている <code>overcloud_domain_name</code> と一致する必要があります。デフォルト値は <b>localdomain</b> です。
<b>CloudName</b>	そのクラウドの DNS 名。デフォルト値は <b>overcloud.localdomain</b> です。
<b>CloudNameCtlplane</b>	そのクラウドのコントロールプレーンエンドポイントの DNS 名。デフォルト値は <b>overcloud.ctlplane.localdomain</b> です。
<b>CloudNameInternal</b>	そのクラウドの内部 API エンドポイントの DNS 名。デフォルト値は <b>overcloud.internalapi.localdomain</b> です。
<b>CloudNameStorage</b>	そのクラウドのストレージエンドポイントの DNS 名 (例: <code>ci-overcloud.storage.tripleo.org</code> )。デフォルト値は <b>overcloud.storage.localdomain</b> です。
<b>CloudNameStorageManagement</b>	そのクラウドのストレージ管理エンドポイントの DNS 名。デフォルト値は <b>overcloud.storagegmt.localdomain</b> です。
<b>ControlFixedIPs</b>	コントロールプレーンの固定仮想 IP を定義します。値には <code>[[ip_address:'1.2.3.4']]</code> の形式を使用します。
<b>ControlPlaneSubnet</b>	アンダークラウドの OpenStack Networking (neutron) コントロールプレーンのサブネットの名前。デフォルト値は <b>ctlplane-subnet</b> です。
<b>DeployIdentifier</b>	このパラメーターを一意の値に設定すると、OpenStack Orchestration (heat) <b>stack-update</b> で設定を行うデプロイメントタスクが再度実行されません。
<b>DeploymentServerBlacklist</b>	トリガーされたデプロイメントからブラックリスト登録するサーバーのホスト名の一覧
<b>EndpointMapOverride</b>	計算された EndpointMap をオーバーライドすることができます。

パラメーター	説明
<b>ExtraConfig</b>	クラスターに挿入する追加の hiera 設定
<b>ExtraHostFileEntries</b>	/etc/hosts に追記する追加のホストエントリの一覧
<b>HypervisorNeutronPhysicalBridge</b>	各ハイパーバイザーで作成する Open vSwitch ブリッジ。このパラメーターのデフォルトは <b>br-ex</b> で、コントロールプレーンノードと同じです。これにより、Open vSwitch エージェントの設定が統一されます。通常、この値は変更する必要はありません。デフォルト値は <b>br-ex</b> です。
<b>HypervisorNeutronPublicInterface</b>	<b>HypervisorNeutronPhysicalBridge</b> に追加するインターフェース。デフォルト値は <b>nic1</b> です。
<b>InternalApiVirtualFixedIPs</b>	InternalApiVirtualInterface ポートの IP 割り当てを制御します。値には <b>[{ip_address:'1.2.3.4'}]</b> の形式を使用します。
<b>NeutronControlPlaneID</b>	コントロールプレーンネットワークの ID または名前。デフォルト値は <b>ctlplane</b> です。
<b>NeutronPublicInterface</b>	外部ブリッジに接続するインターフェース。デフォルト値は <b>nic1</b> です。
<b>NodeCreateBatchSize</b>	ノード作成の最大バッチサイズ。バッチサイズは、32 ノードを超過しないことを推奨します。デフォルト値は <b>30</b> です。
<b>PublicVirtualFixedIPs</b>	PublicVirtualInterface ポートの IP 割り当てを制御します。値には <b>[{ip_address:'1.2.3.4'}]</b> の形式を使用します。
<b>RabbitCookieSalt</b>	RabbitMQ クッキーのソルト。無作為に生成される RabbitMQ クッキーを強制的に変更するには、この値を変更します。デフォルト値は <b>unset</b> です。
<b>RedisVirtualFixedIPs</b>	Redis で使用する仮想 IP の IP 割り当てを制御します。値には <b>[{ip_address:'1.2.3.4'}]</b> の形式を使用します。
<b>ServerMetadata</b>	オープンクラウドでノードを作成するために OpenStack Compute (nova) に渡される追加のプロパティまたはメタデータ。OpenStack Compute (nova) メタデータ API 経由でアクセスできます。



パラメーター	説明
<b>StorageMgmtVirtualFixedIPs</b>	StorageMgmtVirtualInterface ポートの IP 割り当てを制御します。値には <code>[[ip_address:'1.2.3.4']]</code> の形式を使用します。
<b>StorageVirtualFixedIPs</b>	StorageVirtualInterface ポートの IP 割り当てを制御します。値には <code>[[ip_address:'1.2.3.4']]</code> の形式を使用します。
<b>UpdateIdentifier</b>	<b>stack-update</b> の実行中に前回使用されなかった値を設定すると、全ノードでパッケージの更新がトリガーされます。

## 第2章 ロールベースのパラメーター

`_ROLE_` はロール名に置き換えます。たとえば、`_ROLE_Count` には `ControllerCount` を使用します。

パラメーター	説明
<code>_ROLE_Count</code>	1つのロールにデプロイするノード数。デフォルト値は <b>1</b> です。
<code>_ROLE_ExtraConfig</code>	クラスターに挿入する、ロール固有の追加の hiera 設定
<code>_ROLE_HostnameFormat</code>	ノードのホスト名の形式。 <code>%index%</code> はノードのインデックス (例: 0/1/2) に、 <code>%stackname%</code> はスタック名 (例: <b>overcloud</b> ) に置き換えられる点に注意してください。デフォルト値は <code>%stackname%_-_role_%index%</code> です。
<code>_ROLE_Parameters</code>	サービスに提供される任意のロール固有のパラメーター
<code>_ROLE_RemovalPolicies</code>	特定リソースの削除が必要な更新の実行時に、そのロールの <b>ResourceGroup</b> から削除されるリソースの一覧
<code>_ROLE_RemovalPoliciesMode</code>	更新を実行する際の、 <b>ROLE</b> ResourceGroup の RemovalPolicies に対する変更の処理方法。デフォルトモードの <b>append</b> の場合には、既存のブラックリストに追加します。 <b>update</b> の場合には、ブラックリストを置き換えます。デフォルト値は <b>append</b> です。
<code>_ROLE_SchedulerHints</code>	OpenStack Compute (nova) に渡すオプションのスケジューラーヒント
<code>_ROLE_Services</code>	コンポーザブルサービスリソース ( <b>resource_registry</b> で設定される) の一覧。これは、ロールにインストールされる各サービスのネストされたスタックセットを表します。

## 第3章 デバッグパラメーター

以下のパラメーターにより、サービス単位でデバッグモードを設定することができます。**Debug** パラメーターは、全サービスのグローバルパラメーターとして機能し、サービスごとのパラメーターは個別のサービス上のグローバルパラメーターの効果を上書きすることができます。

パラメーター	説明
<b>AodhDebug</b>	OpenStack Telemetry Alarming (aodh) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
<b>BarbicanDebug</b>	OpenStack Key Manager (barbican) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>CeilometerDebug</b>	OpenStack Telemetry (ceilometer) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
<b>CinderDebug</b>	OpenStack Block Storage (cinder) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>ConfigDebug</b>	設定管理 (Puppet 等) をデバッグモードで実行するかどうかを定義します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>Debug</b>	全サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>GlanceDebug</b>	OpenStack Image Storage (glance) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>GnocchiDebug</b>	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
<b>HeatDebug</b>	OpenStack Orchestration (heat) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>HorizonDebug</b>	OpenStack Dashboard (horizon) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>IronicDebug</b>	OpenStack Bare Metal (ironic) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>KeystoneDebug</b>	OpenStack Identity (keystone) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>ManilaDebug</b>	OpenStack Shared File Systems (manila) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>NeutronDebug</b>	OpenStack Networking (neutron) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。

パラメーター	説明
--------	----

<b>NeutronDhcpAgentDebug</b>	OpenStack Networking (neutron) の DHCP エージェントのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>NeutronL3AgentDebug</b>	OpenStack Networking (neutron) の L3 エージェントのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>NeutronMetadataAgentDebug</b>	OpenStack Networking (neutron) のメタデータエージェントのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>NovaDebug</b>	OpenStack Compute (nova) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
<b>SaharaDebug</b>	OpenStack Clustering (sahara) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。

## 第4章 カーネルパラメーター

パラメーター	説明
<b>BridgeNfCallArpTables</b>	sysctl net.bridge.bridge-nf-call-arptables キーを設定します。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>BridgeNfCallIp6Tables</b>	sysctl net.bridge.bridge-nf-call-ip6tables キーを設定します。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>BridgeNfCallIpTables</b>	sysctl net.bridge.bridge-nf-call-iptables キーを設定します。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>ExtraKernelModules</b>	読み込む追加のカーネルモジュールのハッシュ
<b>ExtraKernelPackages</b>	インストールする追加のカーネル関連パッケージの一覧
<b>ExtraSysctlSettings</b>	適用する追加の sysctl 設定のハッシュ
<b>InotifyIntancesMax</b>	sysctl fs.inotify.max_user_instances キーを設定します。デフォルト値は <b>1024</b> です。
<b>KernelDisableIPv6</b>	sysctl net.ipv6.{default/all}.disable_ipv6 キーを設定します。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>KernelIpForward</b>	net.ipv4.ip_forward キーを設定します。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>KernelIpNonLocalBind</b>	net.ipv{4,6}.ip_nonlocal_bind キーを設定します。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>KernelPidMax</b>	sysctl kernel.pid_max キーを設定します。デフォルト値は <b>1048576</b> です。
<b>NeighbourGcThreshold1</b>	sysctl net.ipv4.neigh.default.gc_thresh1 の値を設定します。これは ARP キャッシュに保持されるエントリーの数の最小値です。キャッシュ内にあるエントリーがこの数より少ない場合、ガベージコレクターは実行されません。デフォルト値は <b>1024</b> です。
<b>NeighbourGcThreshold2</b>	sysctl net.ipv4.neigh.default.gc_thresh2 の値を設定します。これは ARP キャッシュに保持されるエントリーの数のソフト最大値です。エントリー数がこの値を超えても、5 秒間ガベージコレクターは実行されません。デフォルト値は <b>2048</b> です。

パラメーター	説明
<b>NeighbourGcThreshold3</b>	sysctl net.ipv4.neigh.default.gc_thresh3 の値を設定します。これは ARP キャッシュに保持されるエントリーの数のハード最大値です。キャッシュ内にこの数を超えるエントリーがある場合、必ずガベージコレクターが実行されます。デフォルト値は <b>4096</b> です。

## 第5章 CEPH STORAGE パラメーター

パラメーター	説明
<b>AdminPassword</b>	OpenStack Networking (neutron) の監視、クエリー等に使用する keystone 管理アカウントのパスワード
<b>CephAdminKey</b>	Ceph 管理クライアントのキー。 <b>ceph-authtool --gen-print-key</b> で作成することができます。
<b>CephAnsibleDisksConfig</b>	<b>ceph-ansible</b> のディスク設定。デフォルト値は <code>{'devices': ['/dev/vdb'], 'journal_size': 512, 'osd_scenario': 'collocated'}</code> です。
<b>CephAnsibleEnvironmentVariables</b>	デフォルトをオーバーライドする Ansible 環境変数のマッピング
<b>CephAnsibleExtraConfig</b>	<b>ceph-ansible</b> Playbook の追加の変数
<b>CephAnsiblePlaybook</b>	実行する <b>ceph-ansible</b> Playbook へのパスの一覧。デフォルト値は <code>['/usr/share/ceph-ansible/site-docker.yml.sample']`</code> です。
<b>CephAnsiblePlaybookVerbosity</b>	ansible-playbook コマンドに渡される、 <code>-v</code> 、 <code>-vv</code> 等に対応する数値 (最大値は 5)。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>CephAnsibleSkipTags</b>	スキップする <b>ceph-ansible</b> タグの一覧。デフォルト値は <b>package-install,with_pkg</b> です。
<b>CephAnsibleUpgradePlaybook</b>	アップグレード時に実行する <b>ceph-ansible</b> Playbook へのパス。デフォルト値は <code>/usr/share/ceph-ansible/infrastructure-playbooks/rolling_update.yml`</code> です。
<b>CephAnsibleWorkflowName</b>	実行する OpenStack Workflow (mistral) ワークフローの名前。デフォルト値は <b>tripleo.storage.v1.ceph-install</b> です。
<b>CephClientKey</b>	Ceph クライアントのキー。現在は、外部の Ceph デプロイメントでの OpenStack ユーザーキーリング作成のみに使用されています。 <b>ceph-authtool --gen-print-key</b> で作成することができます。
<b>CephClientUserName</b>	クライアントが Ceph と対話するために使用するユーザー名。デフォルト値は <b>openstack</b> です。
<b>CephClusterFSID</b>	Ceph クラスタ FSID。UUID でなければなりません。

パラメーター	説明
<b>CephClusterName</b>	Ceph クラスタ名。デフォルト値は <b>ceph</b> です。
<b>CephConfigOverrides</b>	ceph.conf にダンプする追加の設定
<b>CephExternalMonHost</b>	外部で管理される Ceph Mon Host IP の一覧。外部の Ceph デプロイメントにのみ使用されます。
<b>CephIPv6</b>	IPv6 アドレスにバインドする Ceph デーモンを有効にします。デフォルト値は <b>false</b> です。
<b>CephManilaClientKey</b>	Ceph クライアントのキー。 <b>ceph-authtool --gen-print-key</b> で作成することができます。
<b>CephMdsKey</b>	MDS サービスの cephx キー。 <b>ceph-authtool --gen-print-key</b> で作成することができます。
<b>CephMonKey</b>	Ceph 監視クライアントのキー。 <b>ceph-authtool --gen-print-key</b> で作成することができます。
<b>CephPoolDefaultPgNum</b>	RBD プールに使用するデフォルトの配置グループサイズ。デフォルト値は <b>128</b> です。
<b>CephPoolDefaultSize</b>	デフォルトで適用される RBD コピーの最小レプリカ数。デフォルト値は <b>3</b> です。
<b>CephPools</b>	事前定義されたプールの1つの設定をオーバーライドするか、追加の設定を作成します。たとえば、 <b>[{"name": "volumes", "pg_num": 64, "rule_name": "replicated_rule"}]</b> と設定します。
<b>CephRbdMirrorConfigure</b>	ローカルプールとリモートプール間で設定のミラーリングを実施します。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>CephRbdMirrorCopyAdminKey</b>	すべてのノードに管理者の鍵をコピーします。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>CephRbdMirrorPool</b>	リモートクラスターにミラーリングするローカルプールの名前
<b>CephRbdMirrorRemoteCluster</b>	ローカルクラスターからリモート Ceph クラスタに与えられる名前。鍵は <b>/etc/ceph</b> ディレクトリーにあります。デフォルト値は <b>not-ceph</b> です。



パラメーター	説明
<b>CephRbdMirrorRemoteUser</b>	rbd-mirror デーモンでは、ユーザーはリモートクラスターとの認証が必要です。デフォルトでは、この鍵は /etc/ceph/<remote_cluster>.client.<remote_user>.keyring にあります。
<b>CephRgwClientName</b>	RADOSGW サービスのクライアント名。デフォルト値は <b>radosgw</b> です。
<b>CephRgwKey</b>	RADOSGW クライアントの cephx キー。ceph-authtool --gen-print-key で作成することができます。
<b>CephValidationDelay</b>	検証チェックの間隔 (秒単位)。デフォルト値は <b>30</b> です。
<b>CephValidationRetries</b>	Ceph の検証の再試行回数。デフォルト値は <b>40</b> です。
<b>CinderBackupRbdPoolName</b>	Block Storage (cinder) のバックアップが有効な場合に使用するプール。デフォルト値は <b>backups</b> です。
<b>CinderRbdExtraPools</b>	OpenStack Block Storage (cinder) の RBD バックエンドに使用する追加の Ceph プールの一覧。追加の OpenStack Block Storage (cinder) RBD バックエンドドライバーは、この一覧の各プールに作成されます。これは、CinderRbdPoolName に関連付けられた標準の RBD バックエンドドライバーに追加されます。
<b>CinderRbdPoolName</b>	Block Storage (cinder) サービスに使用するプール。デフォルト値は <b>volumes</b> です。
<b>GlanceRbdPoolName</b>	Image Storage (glance) サービスに使用するプール。デフォルト値は <b>images</b> です。
<b>GnocchiRbdPoolName</b>	Telemetry ストレージに使用するプール。デフォルト値は <b>metrics</b> です。
<b>ManilaCephFSCephFSAuthId</b>	Shared File System サービス (manila) の CephFS ユーザー ID。デフォルト値は <b>manila</b> です。
<b>ManilaCephFSDataPoolName</b>	ファイル共有のストレージに使用するプール。デフォルト値は <b>manila_data</b> です。
<b>ManilaCephFSDataPoolPGNum</b>	ファイル共有ストレージの CephFS データプールの配置グループ数。デフォルト値は <b>128</b> です。

パラメーター	説明
<b>ManilaCephFSMetadataPoolName</b>	ファイル共有のメタデータストレージに使用するプール。デフォルト値は <b>manila_metadata</b> です。
<b>ManilaCephFSMetadataPoolPGNum</b>	ファイル共有ストレージの CephFS メタデータプールの配置グループ数。デフォルト値は <b>128</b> です。
<b>ManilaCephFSShareBackendName</b>	ファイル共有ストレージの CephFS ファイル共有のバックエンド名。デフォルト値は <b>cephfs</b> です。
<b>NovaRbdPoolName</b>	Compute ストレージに使用するプール。デフォルト値は <b>vms</b> です。
<b>StackUpdateType</b>	StackAction が UPDATE の場合に UPGRADE と UPDATE のケースを区別するための更新のタイプ (両方とも同じ stack アクション)

## 第6章 BLOCK STORAGE (CINDER) パラメーター

パラメーター	説明
<b>CephClusterName</b>	Ceph クラスタ名。デフォルト値は <b>ceph</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeAge</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Age)。デフォルト値は <b>30</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeDestination</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Log destination)。デフォルト値は <b>/var/log/cinder/cinder-rowsflush.log</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeHour</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Hour)。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeMaxDelay</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Max Delay)。デフォルト値は <b>3600</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeMinute</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Minute)。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeMonth</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Month)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeMonthday</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Month Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeUser</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (User)。デフォルト値は <b>cinder</b> です。
<b>CinderCronDbPurgeWeekday</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Week Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>CinderDefaultVolumeType</b>	Cinder のデフォルトボリューム種別の名前。デフォルト値は <b>tripleo</b> です。
<b>CinderEnableDBPurge</b>	OpenStack Block Storage (cinder) データベースでソフト削除された行をパージする cron ジョブを作成するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>CinderEnableiscsiBackend</b>	OpenStack Block Storage (cinder) の iSCSI バックエンドを有効にするかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。

パラメーター	説明
<b>CinderEnableNfsBackend</b>	OpenStack Block Storage (cinder) の NFS バックエンドを有効にするかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>CinderEnableRbdBackend</b>	OpenStack Block Storage (cinder) の Rbd バックエンドを有効にするかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>CinderISCSHelper</b>	cinder で使用する iSCSI ヘルパー。デフォルト値は <b>lioadm</b> です。
<b>CinderISCSIProtocol</b>	iSCSI に TCP ( <b>iscsi</b> ) または iSER RDMA ( <b>iser</b> ) を使用するかどうかを定義します。デフォルト値は <b>iscsi</b> です。
<b>CinderLVMLoopDeviceSize</b>	cinder LVM ドライバーが使用するループバックファイルのサイズ。デフォルト値は <b>10280</b> です。
<b>CinderNasSecureFileOperations</b>	セキュリティーが強化された NFS ファイルの操作を有効にするかどうかを制御します。有効な値は <b>auto</b> 、 <b>true</b> 、または <b>false</b> です。CinderEnableNfsBackend が true の場合に有効です。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>CinderNasSecureFilePermissions</b>	セキュリティーが強化された NFS ファイルへのアクセス権限を有効にするかどうかを制御します。有効な値は <b>auto</b> 、 <b>true</b> 、または <b>false</b> です。CinderEnableNfsBackend が true の場合に有効です。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>CinderNfsMountOptions</b>	OpenStack Block Storage (cinder) NFS バックエンドが使用する NFS マウント用のマウントオプション。CinderEnableNfsBackend が true の場合に有効です。
<b>CinderNfsServers</b>	OpenStack Block Storage (cinder) NFS バックエンドが使用する NFS サーバー。CinderEnableNfsBackend が true の場合に有効です。
<b>CinderNfsSnapshotSupport</b>	NFS ドライバーのスナップショットのサポートを有効にするかどうかを定義します。CinderEnableNfsBackend が true の場合に有効です。デフォルト値は <b>True</b> です。

パラメーター	説明
<b>CinderPassword</b>	cinder サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
<b>CinderRbdExtraPools</b>	OpenStack Block Storage (cinder) の RBD バックエンドに使用する追加の Ceph プールの一覧。追加の OpenStack Block Storage (cinder) RBD バックエンドドライバーは、この一覧の各プールに作成されます。これは、CinderRbdPoolName に関連付けられた標準の RBD バックエンドドライバーに追加されません。
<b>CinderRbdPoolName</b>	説明なし。デフォルト値は <b>volumes</b> です。
<b>CinderVolumeOptEnvVars</b>	オプションの環境変数の一覧
<b>CinderVolumeOptVolumes</b>	マウントされるオプションのボリュームの一覧
<b>CinderWorkers</b>	Block Storage サービスのワーカー数を設定します。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。デフォルト値は、物理ノードにある仮想 CPU コア数と同じ数値です。
<b>DockerCinderVolumeUlimit</b>	OpenStack Block Storage (cinder) ボリュームコンテナのユーザーリミット。デフォルト値は <b>['nofile=131072']</b> です。
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。

## 第7章 IMAGE STORAGE (GLANCE) パラメーター

パラメーター	説明
<b>CephClusterName</b>	Ceph クラスタ名。デフォルト値は <b>ceph</b> です。
<b>GlanceApiOptVolumes</b>	マウントされるオプションのボリュームの一覧
<b>GlanceBackend</b>	使用するバックエンドの省略名。 <b>swift</b> 、 <b>rbd</b> 、 <b>file</b> のいずれかにする必要があります。デフォルト値は <b>swift</b> です。
<b>GlanceEnabledImportMethods</b>	有効なイメージのインポートメソッドの一覧。この一覧内での有効な値は <b>glance-direct</b> と <b>web-download</b> です。デフォルト値は <b>web-download</b> です。
<b>GlanceImageConversionOutputFormat</b>	イメージ変換プラグインの希望する出力フォーマット。デフォルト値は <b>raw</b> です。
<b>GlanceImageImportPlugins</b>	有効なイメージのインポートプラグインの一覧。この一覧内での有効な値は <b>image_conversion</b> 、 <b>inject_metadata</b> 、 <b>no_op</b> です。デフォルト値は <b>['no_op']</b> です。
<b>GlanceImageMemberQuota</b>	1 イメージあたりのイメージメンバーの最大数。マイナスの値を指定すると無制限に設定されます。デフォルト値は <b>128</b> です。
<b>GlanceLogFile</b>	OpenStack Image (glance) のストレージからのメッセージのログ記録に使用するファイルのパス
<b>GlanceNetappNfsEnabled</b>	<b>GlanceBackend: file</b> を使用する場合は、Netapp がイメージストレージ用に NFS 共有をマウントします。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>GlanceNfsEnabled</b>	<b>GlanceBackend: file</b> を使用する場合は、イメージストレージ用に NFS 共有をマウントします。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>GlanceNfsOptions</b>	<b>GlanceNfsEnabled</b> が true の場合のイメージストレージの NFS マウントオプション。デフォルト値は <b>_netdev,bg,intr,context=system_u:object_r:glance_var_lib_t:s0</b> です。
<b>GlanceNfsShare</b>	<b>GlanceNfsEnabled</b> が true の場合にイメージストレージ用にマウントする NFS 共有

パラメーター	説明
<b>GlanceNodeStagingUri</b>	イメージのインポート時に使用するステージングロケーションを指定する URI。デフォルト値は <b>file:///var/lib/glance/staging</b> です。
<b>GlanceNotifierStrategy</b>	OpenStack Image Storage (glance) の通知キューに使用するストラテジー。デフォルト値は <b>noop</b> です。
<b>GlancePassword</b>	Image Storage サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
<b>GlanceShowMultipleLocations</b>	複数のイメージの保管場所を表示するかどうかを定義します (RBD または Netapp バックエンドでの Copy-on-Write のサポート)。セキュリティリスクを伴う可能性があります。詳しくは、glance.conf を参照してください。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>GlanceStagingNfsOptions</b>	NFS イメージインポートのステージングの NFS マウントオプション。デフォルト値は <b>_netdev,bg,intr,context=system_u:object_r:glance_var_lib_t:s0</b> です。
<b>GlanceStagingNfsShare</b>	イメージインポートのステージングをマウントするための NFS 共有
<b>GlanceWorkers</b>	Image Storage サービスのワーカー数を設定します。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。
<b>NetappShareLocation</b>	Image Storage 用にマウントする Netapp 共有 (GlanceNetappNfsEnabled が true の場合)
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。

## 第8章 ORCHESTRATION (HEAT) パラメーター

パラメーター	説明
HeatApiOptEnvVars	オプションの環境変数の一覧
HeatApiOptVolumes	マウントされるオプションのボリュームの一覧
HeatAuthEncryptionKey	heat-engine の認証暗号鍵
HeatConvergenceEngine	コンバージェンスアーキテクチャーの heat エンジン を有効にします。デフォルト値は <b>True</b> です。
HeatCronPurgeDeletedAge	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Age)。デフォルト値は <b>30</b> です。
HeatCronPurgeDeletedAgeType	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Age type)。デフォルト値は <b>days</b> です。
HeatCronPurgeDeletedDestination	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Log destination)。デフォルト値は <b>/dev/null</b> です。
HeatCronPurgeDeletedEnsure	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Ensure)。デフォルト値は <b>present</b> です。
HeatCronPurgeDeletedHour	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Hour)。デフォルト値は <b>0</b> です。
HeatCronPurgeDeletedMaxDelay	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Max Delay)。デフォルト値は <b>3600</b> です。
HeatCronPurgeDeletedMinute	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Minute)。デフォルト値は <b>1</b> です。
HeatCronPurgeDeletedMonth	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Month)。デフォルト値は <b>*</b> です。
HeatCronPurgeDeletedMonthday	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age より も古いデータベースのエントリーをパージする (Month Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。



パラメーター	説明
<b>HeatCronPurgeDeletedUser</b>	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age よりも古いデータベースのエントリーをパージする (User)。デフォルト値は <b>heat</b> です。
<b>HeatCronPurgeDeletedWeekday</b>	cron ジョブが削除済みとマークされかつ \$age よりも古いデータベースのエントリーをパージする (Week Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>HeatEnableDBPurge</b>	OpenStack Orchestration (heat) データベースでソフト削除された行をパージする cron ジョブを作成するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>HeatEngineOptEnvVars</b>	オプションの環境変数の一覧
<b>HeatEngineOptVolumes</b>	マウントされるオプションのボリュームの一覧
<b>HeatEnginePluginDirs</b>	プラグインを検索するディレクトリーアレイ
<b>HeatMaxJsonBodySize</b>	OpenStack Orchestration (heat) API の JSON リクエスト本文の RAW データ型最大バイトサイズ。デフォルト値は <b>4194304</b> です。
<b>HeatMaxResourcesPerStack</b>	最上位のスタックごとに許容できる最大リソース。-1は無制限に設定されます。デフォルト値は <b>1000</b> です。
<b>HeatPassword</b>	Orchestration サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
<b>HeatStackDomainAdminPassword</b>	OpenStack Identity (keystone) の OpenStack Orchestration (heat) ドメインの管理者パスワード
<b>HeatWorkers</b>	OpenStack Orchestration (heat) サービスのワーカー数。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。

## 第9章 DASHBOARD (HORIZON) パラメーター

パラメーター	説明
<b>HorizonAllowedHosts</b>	OpenStack Dashboard (horizon) が実行中のサーバーの IP/ホスト名の一覧。ヘッダーチェックに使用します。デフォルト値は * です。
<b>HorizonCustomizationModule</b>	OpenStack Dashboard (horizon) には、カスタマイズを行うためのグローバルオーバーライドメカニズムがあります。
<b>HorizonPasswordValidator</b>	パスワード検証のための正規表現
<b>HorizonPasswordValidatorHelp</b>	パスワード検証のためのヘルプテキスト
<b>HorizonSecret</b>	Web サーバーの秘密鍵
<b>HorizonSecureCookies</b>	OpenStack Dashboard (horizon) で CSRF_COOKIE_SECURE / SESSION_COOKIE_SECURE を設定します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>HorizonVhostExtraParams</b>	OpenStack Dashboard (horizon) vhost 設定の追加パラメーター。デフォルト値は <code>{'add_listen': True, 'priority': 10, 'access_log_format': '%a %l %u %t \"%r\" %&gt;s %b \"%%\"{Referer}i\" \"%%\"{User-Agent}i\"', 'options': ['FollowSymLinks', 'MultiViews']}</code> です。
<b>MemcachedIPv6</b>	Memcached の IPv6 機能を有効にします。デフォルト値は <b>False</b> です。

## 第10章 BARE METAL (IRONIC) パラメーター

パラメーター	説明
<b>IronicCleaningDiskErase</b>	初回のデプロイメントおよび再デプロイメントの前に行うディスク消去の種類。完全に消去するには <b>full</b> を指定します。ディスクのメタデータ (パーティションテーブル) のみを消去するには <b>metadata</b> を指定します。デフォルト値は <b>full</b> です。
<b>IronicCleaningNetwork</b>	ベアメタルノードの消去に使用するオーバークラウドネットワークの名前または UUID。デフォルト値の <b>provisioning</b> は、初期のデプロイメント中 (ネットワークがまだ作成されていない時点) はそのまま使用することができますが、デプロイ後のスタックの更新時に実際の UUID に変更する必要があります。デフォルト値は <b>provisioning</b> です。
<b>IronicDefaultBootOption</b>	ベアメタルインスタンスのブート方法。ローカルのブートローダーを使用するには <b>local</b> に設定します (パーティションイメージには grub2 が必要です)。PXE/iPXE を使用してコントローラーからインスタンスをブートするようにするには、 <b>netboot</b> に設定します。デフォルト値は <b>local</b> です。
<b>IronicDefaultNetworkInterface</b>	デフォルトで使用されるネットワークインターフェースの実装。フラットなプロバイダーネットワークを使用するには、 <b>flat</b> に設定します。他のネットワーク種別と特定の高度なネットワーク機能を有効にするために OpenStack Bare Metal (ironic) が OpenStack Networking (neutron) ML2 ドライバーと対話するようにするには、 <b>neutron</b> に設定します。 <b>IronicProvisioningNetwork</b> を正しく設定する必要があります。デフォルト値は <b>flat</b> です。
<b>IronicDefaultResourceClass</b>	新しいノードで使用するデフォルトのリソースクラス
<b>IronicDeployLogsStorageBackend</b>	RAM ディスクログの保管に使用するバックエンドで、「local」または「swift」のいずれかです。デフォルト値は <b>local</b> です。
<b>IronicEnableStagingDrivers</b>	ステージングドライバーの使用を有効にするかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>IronicEnabledBootInterfaces</b>	有効にするブートインターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>[pxe]</b> です。

パラメーター	説明
<b>IronicEnabledConsoleInterfaces</b>	有効にするコンソールインターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['ipmitool-socat', 'no-console']</b> です。
<b>IronicEnabledDeployInterfaces</b>	有効にするデプロイインターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['iscsi', 'direct']</b> です。
<b>IronicEnabledDrivers</b>	有効にする OpenStack Bare Metal (ironic) ドライバー。デフォルト値は <b>['pxe_ipmitool', 'pxe_drac', 'pxe_ilo']</b> です。
<b>IronicEnabledHardwareTypes</b>	有効にする OpenStack Bare Metal (ironic) のハードウェア種別。デフォルト値は <b>['ipmi', 'redfish']</b> です。
<b>IronicEnabledInspectInterfaces</b>	有効にする検査インターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['no-inspect']</b> です。
<b>IronicEnabledManagementInterfaces</b>	有効にする管理インターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['ipmitool', 'redfish']</b> です。
<b>IronicEnabledNetworkInterfaces</b>	有効にするネットワークインターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['flat', 'neutron']</b> です。
<b>IronicEnabledPowerInterfaces</b>	有効にする電源インターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['ipmitool', 'redfish']</b> です。
<b>IronicEnabledRaidInterfaces</b>	有効にする RAID インターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['no-raid', 'agent']</b> です。
<b>IronicEnabledStorageInterfaces</b>	有効にするストレージインターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['cinder', 'noop']</b> です。

パラメーター	説明
<b>IronicEnabledVendorInterfaces</b>	有効にするベンダーインターフェースの実装。各ハードウェア種別に対して、少なくとも1つ適切な実装を有効にする必要があります。デフォルト値は <b>['ipmitool', 'no-vendor']</b> です。
<b>IronicIPXEEnabled</b>	デプロイメントに PXE の代わりに iPXE を使用するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>IronicIPXEPort</b>	iPXE の使用時にイメージの提供に使用するポート。デフォルト値は <b>8088</b> です。
<b>IronicInspectorCollectors</b>	IPA 検査コレクターのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>default,logs</b> です。
<b>IronicInspectorDiscoveryDefaultDriver</b>	新規検出されたノードに使用するデフォルトのドライバー (IronicInspectorEnableNodeDiscovery が True に設定されている必要があります)。このドライバーは、enabled_drivers に自動的に追加されます。デフォルト値は <b>ipmi</b> です。
<b>IronicInspectorEnableNodeDiscovery</b>	OpenStack Bare Metal (ironic) でイントロスペクションの RAM ディスクを PXE ブートする未知のノードを ironic-inspector が登録するようにします。新規ノードに使用するデフォルトのドライバーは IronicInspectorDiscoveryDefaultDriver パラメーターによって指定されます。このドライバーは、イントロスペクションのルールを使用して指定することもできます。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>IronicInspectorExtraProcessingHooks</b>	デフォルトリストに追記するプロセスフックのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>extra_hardware,lldp_basic,local_link_connection</b> です。
<b>IronicInspectorIPXEEnabled</b>	検査に iPXE を使用するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>IronicInspectorInterface</b>	検査の dnsmasq がリッスンするネットワークインターフェース。デフォルト値は <b>br-ex</b> です。
<b>IronicInspectorIpRange</b>	検査プロセス中にノードに提供される一時的な IP 範囲。これは、OpenStack Networking (neutron) DHCP によって割り当てられる範囲と重なってはいけません。が、 <b>ironic-inspector</b> に戻るようルーティングする必要があります。このオプションには有意なデフォルトがないため、設定は必須です。

パラメーター	説明
<b>IronicInspectorKernelArgs</b>	OpenStack Bare Metal (ironic) インспекターのカーネル引数。デフォルト値は <b>ipa-inspection-dhcp-all-interfaces=1 ipa-collect-lldp=1 ipa-debug=1</b> です。
<b>IronicInspectorUseSwift</b>	イントロスペクションデータの保管に Swift を使用するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>IronicPassword</b>	Bare Metal サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
<b>IronicProvisioningNetwork</b>	<b>IronicDefaultNetworkInterface</b> が <b>neutron</b> に設定されている場合に、ベアメタルノードのプロビジョニングに使用されるオープンクラウドネットワークの名前または UUID。デフォルト値の <b>provisioning</b> は、初期のデプロイメント中 (ネットワークがまだ作成されていない時点) はそのまま使用することができますが、デプロイ後のスタックの更新時に実際の UUID に変更する必要があります。デフォルト値は <b>provisioning</b> です。

## 第11章 IDENTITY (KEYSTONE) パラメーター

パラメーター	説明
<b>AdminEmail</b>	OpenStack Identity (keystone) の管理者アカウントのメール。デフォルト値は <b>admin@example.com</b> です。
<b>AdminPassword</b>	OpenStack Identity (keystone) の管理者アカウントのパスワード
<b>AdminToken</b>	OpenStack Identity (keystone) のシークレットおよびデータベースのパスワード
<b>KeystoneChangePasswordUponFirstUse</b>	このオプションを有効にすると、ユーザーの作成時や、管理者がパスワードをリセットした場合に、ユーザーによるパスワードの変更が必要となります。
<b>KeystoneCredential0</b>	最初の OpenStack Identity (keystone) の認証情報キー。有効なキーでなければなりません。
<b>KeystoneCredential1</b>	2 番目の OpenStack Identity (keystone) の認証情報キー。有効なキーでなければなりません。
<b>KeystoneCronTokenFlushDestination</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (Log destination)。デフォルト値は <b>/var/log/keystone/keystone-tokenflush.log</b> です。
<b>KeystoneCronTokenFlushEnsure</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (Ensure)。デフォルト値は <b>present</b> です。
<b>KeystoneCronTokenFlushHour</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (Hour)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>KeystoneCronTokenFlushMaxDelay</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (Max Delay)。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>KeystoneCronTokenFlushMinute</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (Minute)。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>KeystoneCronTokenFlushMonth</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (Month)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>KeystoneCronTokenFlushMonthday</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (Month Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。

パラメーター	説明
<b>KeystoneCronTokenFlushUser</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (User)。デフォルト値は <b>keystone</b> です。
<b>KeystoneCronTokenFlushWeekday</b>	cron ジョブが有効期限の切れたトークンをパージする (Week Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>KeystoneDisableUserAccountDaysInactive</b>	ユーザーが認証なしでアカウントを使用し続けることのできる最大日数。この期間が過ぎるとアカウントは「非アクティブ」と見なされて自動的に無効 (ロック状態) になります。
<b>KeystoneEnableDBPurge</b>	OpenStack Identity (keystone) データベースでソフト削除された行をパージする cron ジョブを作成するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>KeystoneFernetKey0</b>	最初の OpenStack Identity (keystone) の fernet キー。有効なキーでなければなりません。
<b>KeystoneFernetKey1</b>	2 番目の OpenStack Identity (keystone) の fernet キー。有効なキーでなければなりません。
<b>KeystoneFernetKeys</b>	OpenStack Identity (keystone) Fernet 鍵とそれらのパスが含まれたマッピング
<b>KeystoneFernetMaxActiveKeys</b>	OpenStack Identity (keystone) Fernet 鍵リポジトリ内のアクティブなキーの最大数。デフォルト値は <b>5</b> です。
<b>KeystoneLDAPBackendConfigs</b>	keystone に設定した LDAP バックエンドの設定を含むハッシュ
<b>KeystoneLDAPDomainEnable</b>	ldap_backend の puppet keystone 定義を呼び出すトリガー。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>KeystoneLockoutDuration</b>	認証の最大試行回数 (KeystoneLockoutFailureAttempts で指定) を超過した場合にユーザーアカウントがロックされる秒数
<b>KeystoneLockoutFailureAttempts</b>	ユーザーの認証失敗がこの最大回数を超えると、KeystoneLockoutDuration で指定された秒数の期間ユーザーアカウントがロックされます。
<b>KeystoneMinimumPasswordAge</b>	ユーザーがパスワードを変更できるようになるまで、そのパスワードを使用する必要がある日数。これは、パスワードの履歴を消去して古いパスワードを再利用するためにユーザーがパスワードを直ちに変更するのを防ぎます。



パラメーター	説明
<b>KeystoneNotificationDriver</b>	OpenStack Identity (keystone) で使用される Oslo 通知ドライバーのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>['messaging']</b> です。
<b>KeystoneNotificationFormat</b>	OpenStack Identity (keystone) の通知形式。デフォルト値は <b>basic</b> です。
<b>KeystoneNotificationTopics</b>	有効にする OpenStack Identity (keystone) の通知トピック
<b>KeystonePasswordExpiresDays</b>	パスワードが有効と見なされる日数。この期間が過ぎるとパスワードの変更が要求されます。
<b>KeystonePasswordRegex</b>	パスワードの強度要件の検証に使用される正規表現
<b>KeystonePasswordRegexDescription</b>	人が判読できる言語でパスワードの正規表現を記述してください。
<b>KeystoneSSLCertificate</b>	トークンの有効性を検証するための OpenStack Identity (keystone) 証明書
<b>KeystoneSSLCertificateKey</b>	トークンに署名するための OpenStack Identity (keystone) キー
<b>KeystoneTokenProvider</b>	OpenStack Identity (keystone) のトークン形式。デフォルト値は <b>fernet</b> です。
<b>KeystoneUniqueLastPasswordCount</b>	これにより、新たに作成されたパスワードが一意であることを強制するために、履歴に保管する以前のユーザーパスワードのイテレーション数が制御されます。
<b>KeystoneWorkers</b>	OpenStack Identity (keystone) サービスのワーカー数を設定します。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。デフォルト値は、物理ノードにある仮想 CPU コア数と同じ数値です。
<b>ManageKeystoneFernetKeys</b>	director が OpenStack Identity (keystone) fernet キーを管理するかどうか。True に設定した場合には、fernet キーは OpenStack Workflow (mistral) 内の保存済みのキーレポジトリー の <b>KeystoneFernetKeys</b> 変数から値を取得します。False に設定されている場合には、スタックを作成した場合にのみキーが初期化され、その後の更新時にはキーには触れません。デフォルト値は <b>True</b> です。

パラメーター	説明
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。

## 第12章 KEY MANAGER (BARBICAN) パラメーター

パラメーター	説明
<b>BarbicanDogtagStoreGlobalDefault</b>	このプラグインがグローバルのデフォルトプラグインかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>BarbicanDogtagStoreHost</b>	Dogtag サーバーのホスト名
<b>BarbicanDogtagStoreNSSPassword</b>	NSS DB のパスワード
<b>BarbicanDogtagStorePEMPath</b>	リクエストの認証に使用する PEM ファイルのパス。デフォルト値は <b>/etc/barbican/kra_admin_cert.pem</b> です。
<b>BarbicanDogtagStorePort</b>	Dogtag サーバーのポート。デフォルト値は <b>8443</b> です。
<b>BarbicanKmipStoreGlobalDefault</b>	このプラグインがグローバルのデフォルトプラグインかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>BarbicanKmipStoreHost</b>	KMIP デバイスのホスト
<b>BarbicanKmipStorePassword</b>	KMIP デバイスに接続するためのパスワード
<b>BarbicanKmipStorePort</b>	KMIP デバイスのポート
<b>BarbicanKmipStoreUsername</b>	KMIP デバイスに接続するためのユーザー名
<b>BarbicanPassword</b>	OpenStack Key Manager (barbican) サービスアカウントのパスワード
<b>BarbicanPkcs11CryptoGlobalDefault</b>	このプラグインがグローバルのデフォルトプラグインかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>BarbicanPkcs11CryptoHMACLabel</b>	HMAC 鍵のラベル
<b>BarbicanPkcs11CryptoLibraryPath</b>	ベンダー PKCS11 ライブラリーへのパス
<b>BarbicanPkcs11CryptoLogin</b>	PKCS11 セッションにログインするためのパスワード
<b>BarbicanPkcs11CryptoMKEKLabel</b>	マスター KEK のラベル
<b>BarbicanPkcs11CryptoMKEKLength</b>	マスター KEK の長さ (バイト単位)。
<b>BarbicanPkcs11CryptoSlotId</b>	HSM のスロット ID。

パラメーター	説明
<b>BarbicanSimpleCryptoGlobalDefault</b>	このプラグインがグローバルのデフォルトプラグインかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>BarbicanSimpleCryptoKek</b>	シークレットの暗号化に使用する KEK
<b>BarbicanWorkers</b>	barbican::wsgi::apache のワーカー数を設定します。デフォルト値は <b>%{::processorcount}</b> です。
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。

## 第13章 SHARED FILE SYSTEM (MANILA) パラメーター

パラメーター	説明
<b>CephClusterName</b>	Ceph クラスター名。デフォルト値は <b>ceph</b> です。
<b>ManilaCephClientUserName</b>	説明なし。デフォルト値は <b>manila</b> です。
<b>ManilaCephFSCephFSProtocolHelperType</b>	cephfs バックエンドが有効な場合のプロトコル種別 ( <b>CEPHFS</b> または <b>NFS</b> )。manila cephfs 環境ファイルにより設定します。デフォルト値は <b>CEPHFS</b> です。
<b>ManilaIPv6</b>	manila での IPv6 アクセスを有効にするには True に設定します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>ManilaPassword</b>	Shared File サービスアカウントのパスワード
<b>ManilaWorkers</b>	Manila API のワーカー数を設定します。デフォルト値は、物理ノードにある仮想 CPU コア数と同じ数値です。
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。

## 第14章 MESSAGING パラメーター

パラメーター	説明
<b>RabbitAdditionalErlArgs</b>	Erlang サブシステムに渡される追加のパラメーター。文字列は引用符で2度囲む必要があります。デフォルトは <code>+sbwt none</code> です。これにより、スピロック時に erlang 仮想マシンがビジーウェイトしなくなります。ただし、この設定は簡単に上書きすることができます。デフォルト値は <b>'+sbwt none'</b> です。
<b>RabbitCookie</b>	RabbitMQ ノード間の認証に使用される共有シークレット
<b>RabbitFDLimit</b>	RabbitMQ FD の制限を設定します。デフォルト値は <b>65536</b> です。
<b>RabbitHAQueues</b>	Rabbit で設定される HA キューの数。デフォルトは <code>-1</code> で、「ha-mode all」を意味します。0 は特別な値で、 $\text{CEIL}(N/2)$ に自動的に上書きされます。ここで、N は RabbitMQ を実行しているノードの数です。デフォルト値は <b>-1</b> です。
<b>RabbitIPv6</b>	RabbitMQ で IPv6 を有効にします。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>RabbitNetTickTime</b>	erlang net_ticktime カーネル変数の値を設定する秒数。デフォルト値は <b>15</b> です。
<b>RabbitPassword</b>	RabbitMQ のパスワード
<b>RabbitUserName</b>	RabbitMQ のユーザー名。デフォルト値は <b>guest</b> です。

## 第15章 NETWORKING (NEUTRON) パラメーター

パラメーター	説明
<b>DhcpAgentNotification</b>	DHCP エージェントの通知を有効にします。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>DockerNeutronDHCPAgentUlimit</b>	OpenStack Networking (neutron) DHCP エージェントコンテナのユーザーリミット。デフォルト値は <b>['nofile=16384']</b> です。
<b>DockerNeutronL3AgentUlimit</b>	OpenStack Networking (neutron) L3 エージェントコンテナのユーザーリミット。デフォルト値は <b>['nofile=16384']</b> です。
<b>EnableVLANTransparency</b>	True の場合には、プラグインが VLAN トランスパレントネットワークの作成に対応していれば、そのタイプのネットワークの作成を許可します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>L2gwAgentEnableManager</b>	OVSDB サーバーにより接続を開始することができません。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>L2gwAgentManagerTableListeningPort</b>	L2 ゲートウェイエージェントのポート番号。これにより、エージェントがリスンできるようにします。デフォルト値は <b>6632</b> です。
<b>L2gwAgentMaxConnectionRetries</b>	L2 ゲートウェイエージェントが OVSDB サーバーへの接続をリトライする回数。デフォルト値は <b>10</b> です。
<b>L2gwAgentOvsdbHosts</b>	L2 ゲートウェイエージェント OVSDB サーバーの一覧
<b>L2gwAgentPeriodicInterval</b>	L2 ゲートウェイエージェントは、OVSDB サーバーとの接続状態を確認します。間隔は確認から次の確認までの秒数です。デフォルト値は <b>20</b> です。
<b>L2gwAgentSocketTimeout</b>	ソケットのタイムアウト。デフォルト値は <b>30</b> です。
<b>L2gwServiceDefaultDeviceName</b>	L2 ゲートウェイのデフォルトデバイス名。デフォルト値は <b>Switch1</b> です。
<b>L2gwServiceDefaultInterfaceName</b>	L2 ゲートウェイのデフォルトインターフェース名。デフォルト値は <b>FortyGigE1/0/1</b> です。
<b>L2gwServicePeriodicMonitoringInterval</b>	プラグインの間隔。デフォルト値は <b>5</b> です。

パラメーター	説明
<b>L2gwServiceProvider</b>	L2 ゲートウェイのサービスプロバイダーとして使用するバックエンド。デフォルト値は <b>[<code>'L2GW:l2gw:networking_l2gw.services.l2gateway.service_drivers.L2gwDriver:default'</code>]</b> です。
<b>L2gwServiceQuotaL2Gateway</b>	L2 ゲートウェイのクォータ。デフォルト値は <b>5</b> です。
<b>NeutronAllowL3AgentFailover</b>	自動の l3-agent フェイルオーバーを許可します。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>NeutronApiOptEnvVars</b>	オプションの環境変数の一覧
<b>NeutronApiOptVolumes</b>	マウントされるオプションのボリュームの一覧
<b>NeutronCorePlugin</b>	ネットワークのコアプラグイン。この値は、 <b>neutron.core_plugins</b> の名前空間から読み込まれるエントリーポイントでなければなりません。デフォルト値は <b>ml2</b> です。
<b>NeutronDBSyncExtraParams</b>	<b>neutron-db-manage upgrade head</b> コマンドに追記する追加のコマンドラインパラメーターの文字列
<b>NeutronDhcpAgentDnsmasqDnsServers</b>	dnsmasq フォワーダーとして使用するサーバーの一覧
<b>NeutronDhcpAgentsPerNetwork</b>	ネットワークごとにスケジュールする DHCP エージェントの数。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>NeutronDhcpOvsIntegrationBridge</b>	使用する Open vSwitch ブリッジの名前
<b>NeutronDnsDomain</b>	ホスト名の構築に使用するドメイン。デフォルト値は <b>openstacklocal</b> です。
<b>NeutronEnableDVR</b>	分散仮想ルーター (DVR: Distributed Virtual Router) を有効にします。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NeutronEnableDibblerDockerWrapper</b>	OpenStack Networking (neutron) が別のコンテナでディブライアントを起動するように、ラッパースクリプトを生成します。デフォルト値は <b>True</b> です。



パラメーター	説明
<b>NeutronEnableDnsmasqDockerWrapper</b>	OpenStack Networking (neutron) が別のコンテナで dnsmasq を起動するように、dnsmasq ラッパースクリプトを生成します。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>NeutronEnableForceMetadata</b>	True の場合には、DHCP は常に仮想マシンにメタデータをルーティングします。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NeutronEnableHaproxyDockerWrapper</b>	OpenStack Networking (neutron) が別のコンテナで haproxy を起動するように、ラッパースクリプトを生成します。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>NeutronEnableIsolatedMetadata</b>	True の場合には、DHCP は常に分離ネット上でメタデータのサポートを許可します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NeutronEnableKeepalivedWrapper</b>	OpenStack Networking (neutron) が別のコンテナで keepalived プロセスを起動するように、ラッパースクリプトを生成します。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>NeutronEnableL2Pop</b>	OpenStack Networking (neutron) エージェントの L2 Population 機能を有効化/無効化します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NeutronEnableMetadataNetwork</b>	True の場合には、DHCP はメタデータネットワークを提供します。このパラメーターを True に指定するには、 <b>NeutronEnableIsolatedMetadata</b> または <b>NeutronEnableForceMetadata</b> のいずれかのパラメーターも True でなければなりません。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NeutronEnableRadvdDockerWrapper</b>	OpenStack Networking (neutron) が別のコンテナで radvd を起動するように、ラッパースクリプトを生成します。現在、この機能はデフォルトで無効となっていて、radvd への修正が利用できない状況であることに注意してください ( <a href="https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1564391">https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=1564391</a> を参照してください)。radvd への修正が全対象ディストリビューションで一般提供されると、デフォルトで有効になります。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NeutronExternalNetworkBridge</b>	外部ネットワークトラフィックに使用するブリッジの名前。通常 L2 エージェントは外部ブリッジへのポート接続を処理するので、パラメーターは設定するべきではありません。

パラメーター	説明
<b>NeutronFirewallDriver</b>	OpenStack Networking (neutron) のセキュリティーグループ機能を有効にするためのファイアウォールドライバー。デフォルト値は <b>iptables_hybrid</b> です。
<b>NeutronFlatNetworks</b>	フラットネットワーク名がプラグインで設定されるように指定します。デフォルト値は <b>datacentre</b> です。
<b>NeutronGlobalPhysnetMtu</b>	下層の物理ネットワークの MTU。OpenStack Networking (neutron) はこの値を使用して、全仮想ネットワークのコンポーネントの MTU を算出します。フラットネットワークおよび VLAN ネットワークの場合は、OpenStack Networking はこの値を変更せずに使用します。VXLAN などのオーバーレイネットワークの場合は、OpenStack Networking は自動的にこの値からオーバーレイプロトコルのオーバーヘッドを除外します。デフォルト値は <b>1500</b> です。
<b>NeutronInterfaceDriver</b>	OpenStack Networking (neutron) DHCP エージェントインターフェースドライバー。デフォルト値は <b>neutron.agent.linux.interface.OVSInterfaceDriver</b> です。
<b>NeutronL3AgentMode</b>	L3 エージェントのエージェントモード。 <b>legacy</b> または <b>dvr_snat</b> のいずれかを指定する必要があります。デフォルト値は <b>legacy</b> です。
<b>NeutronLinuxbridgeFirewallDriver</b>	セキュリティーグループの実装に使用するファイアウォールドライバーのクラス名を設定します。指定可能な値は、システム構成により異なります。デフォルト値である空の文字列を指定すると、デフォルトでサポートされている構成となります。
<b>NeutronML2PhysicalNetworkMtus</b>	物理ネットワークと MTU 値のマッピング一覧。マッピングのフォーマットは <b>&lt;physnet&gt;:&lt;mtu val&gt;</b> です。このマッピングにより、ML2 プラグインのデフォルト <b>segment_mtu</b> 値とは異なる物理ネットワーク MTU 値を指定し、特定のネットワークについて <b>global_physnet_mtu</b> からの値を上書きすることができます。
<b>NeutronMechanismDrivers</b>	テナントネットワークのメカニズムドライバー。デフォルト値は <b>openvswitch</b> です。
<b>NeutronMetadataProxySharedSecret</b>	スプーフィングを防ぐための共有シークレット
<b>NeutronNetworkType</b>	テナントネットワークの種別。デフォルト値は <b>vxlan</b> です。

パラメーター	説明
<b>NeutronNetworkVLANRanges</b>	サポートされる OpenStack Networking (neutron) ML2 および Open vSwitch VLAN マッピングの範囲。デフォルトでは、物理ネットワーク「 <b>datacentre</b> 」上の VLAN を許可するように設定されています ( <b>NeutronBridgeMappings</b> を参照)。デフォルト値は <b>datacentre:1:1000</b> です。
<b>NeutronOverlayIPVersion</b>	全オーバーレイネットワークエンドポイントに使用される IP バージョン。デフォルト値は <b>4</b> です。
<b>NeutronOvsIntegrationBridge</b>	使用する Open vSwitch ブリッジの名前
<b>NeutronPassword</b>	OpenStack Networking (neutron) サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
<b>NeutronPluginExtensions</b>	有効な拡張プラグインのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>qos,port_security</b> です。
<b>NeutronPluginMI2PuppetTags</b>	puppet での設定ファイルを生成するのに使用される puppet リソースタグ名。デフォルト値は <b>neutron_plugin_mi2</b> です。
<b>NeutronRpcWorkers</b>	OpenStack Networking (neutron) サービスの RPC ワーカー数を設定します。指定しないと、 <b>NeutronWorkers</b> と同じ値に設定されます。
<b>NeutronServicePlugins</b>	サービスプラグインのエントリーポイントのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>router,qos,segments,trunk</b> です。
<b>NeutronTunnelIdRanges</b>	テナントネットワークの割り当てに使用できる GRE トンネリング ID の範囲を列挙した <tun_min>: <tun_max> タブルのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>['1:4094']</b> です。
<b>NeutronTunnelTypes</b>	テナントネットワークのトンネル種別。デフォルト値は <b>vxlan</b> です。
<b>NeutronTypeDrivers</b>	読み込むネットワーク種別ドライバーのエントリーポイントのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>vxlan,vlan,flat,gre</b> です。
<b>NeutronVniRanges</b>	テナントネットワークの割り当てに使用できる VXLAN VNI ID の範囲を列挙した <vni_min>: <vni_max> タブルのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>['1:4094']</b> です。

パラメーター	説明
<b>NeutronWorkers</b>	OpenStack Networking サービスの API および RPC ワーカー数を設定します。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。
<b>PhysicalInterfaceMapping</b>	物理ネットワーク名をエージェントのノード固有の物理ネットワークインターフェースにマッピングする、<physical_network>:<physical_interface> タブルのリスト。デフォルトは空のリストです。

## 第16章 COMPUTE (NOVA) パラメーター

パラメーター	説明
<b>ConfigDownload</b>	Config-download メソッドが使用されるかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>ContainerCpusetCpus</b>	コンテナが使用することのできる CPU またはコアを、特定の CPU/コアに制限します。デフォルト値は <b>all</b> です。
<b>ContainerNovaLibvirtUlimit</b>	OpenStack Compute (nova) Libvirt コンテナのユーザーリミット。デフォルト値は <b>['nofile=131072', 'nproc=126960']</b> です。
<b>DockerNovaComputeUlimit</b>	OpenStack Compute (nova) コンピュートコンテナのユーザーリミット。デフォルト値は <b>['nofile=131072', 'memlock=67108864']</b> です。
<b>DockerNovaMigrationSshdPort</b>	ドッカー nova 移行対象 sshd サービスがバインドするポート。デフォルト値は <b>2022</b> です。
<b>EnableConfigPurge</b>	director で生成されていない設定を削除します。アップグレード後に以前の設定が残らないようにするために使用します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>EnableInstanceHA</b>	インスタンス HA の設定を有効にするかどうかを定義します。この設定には、Compute ロールへの PacemakerRemote サービスの追加が必要です。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>InstanceNameTemplate</b>	インスタンス名の生成に使用するテンプレートの文字列。デフォルト値は <b>instance-%08x</b> です。
<b>InternalTLSNbdCAFile</b>	NBD TLS に使用する CA 証明書を指定します。デフォルト値は <b>/etc/pki/qemu/ca-cert.pem</b> です。
<b>InternalTLSQemuCAFile</b>	qemu に使用する CA 証明書を指定します。デフォルト値は <b>/etc/pki/CA/certs/qemu.pem</b> です。
<b>InternalTLSVncCAFile</b>	VNC TLS に使用する CA 証明書を指定します。デフォルト値は <b>/etc/pki/CA/certs/vnc.crt</b> です。
<b>KernelArgs</b>	ホストに適用するカーネル引数

パラメーター	説明
<b>LibvirtCACert</b>	これは、libvirt 内の TLS に使用する CA 証明書を指定します。このファイルは、libvirt 内のデフォルト CA のパス (/etc/pki/CA/cacert.pem) へのシンボリックリンクです。libvirt のバックエンドである GNU TLS の制限により、ファイルは 65 K 以下にする必要がある点に注意してください (そのため、システムの CA バンドルは使用できません)。このパラメーターは、デフォルト (内部 TLSCAFile パラメーターがベース) が望ましくない場合に使用すべきです。現在のデフォルトは、TripleO のデフォルト CA である FreeIPA を反映しています。これは、内部の TLS が有効な場合にのみ使用されます。
<b>LibvirtEnabledPerfEvents</b>	これは、モニターとして使用することのできるパフォーマンスイベントリストです。たとえば、 <b>cmt,mbml,mbmt</b> のようになります。ベースには Red Hat Enterprise Linux 7.4 を使用し、 <b>libvirt</b> バージョンは 1.3.3 以上であることを確認します。また、通知を有効にし、 <b>cmt</b> フラグをサポートする CPU を搭載したハードウェアを使用するようにしてください。
<b>LibvirtLogFilters</b>	フィルターを定義して、カテゴリログ出力ごとに異なるログレベルを選択します (詳しくは <a href="https://libvirt.org/logging.html">https://libvirt.org/logging.html</a> を参照)。デフォルト値は <b>1:libvirt 1:qemu 1:conf 1:security 3:event 3:json 3:file 3:object 1:util</b> です。
<b>LibvirtNbdCACert</b>	これは、NBD TLS に使用する CA 証明書を指定します。このファイルは、デフォルト CA のパス (/etc/pki/libvirt-nbd/ca-cert.pem) へのシンボリックリンクです。このパラメーターは、デフォルト (InternalTLSNbdCAFile パラメーターがベース) が望ましくない場合に使用すべきです。現在のデフォルトは、TripleO のデフォルト CA である FreeIPA を反映しています。これは、内部の TLS が有効な場合にのみ使用されます。
<b>LibvirtTLSPassword</b>	TLS が有効な場合の libvirt サービスのパスワード
<b>LibvirtTLSPriority</b>	コンパイル時のデフォルト TLS 優先度文字列をオーバーライドします。デフォルト値は <b>NORMAL:-VERS-SSL3.0:-VERS-TLS-ALL:+VERS-TLS1.2</b> です。

パラメーター	説明
<b>LibvirtVncCACert</b>	これは、VNC TLS に使用する CA 証明書を指定します。このファイルは、デフォルト CA のパス (/etc/pki/libvirt-vnc/ca-cert.pem) へのシンボリックリンクです。このパラメーターは、デフォルト (InternalTLSVncCAFile パラメーターで指定されている) が望ましくない場合に使用すべきです。現在のデフォルトは、TripleO のデフォルト CA である FreeIPA を反映しています。これは、内部の TLS が有効な場合にのみ使用されます。
<b>MigrationSshKey</b>	移行用の SSH 鍵。public_key および private_key の鍵を持つディクショナリーが必要です。値は SSH 公開/秘密鍵ファイルと全く同じでなければなりません。デフォルト値は <b>{'public_key': '', 'private_key': ''}</b> です。
<b>MigrationSshPort</b>	ssh を介したマイグレーションのターゲットポート。デフォルト値は <b>2022</b> です。
<b>NeutronMetadataProxySharedSecret</b>	スプーフィングを防ぐための共有シークレット
<b>NeutronPhysnetNUMANodesMapping</b>	物理ネットワーク名 (キー) と NUMA ノード (値) のマッピング (例: <b>NeutronPhysnetNUMANodesMapping: {'foo': [0, 1], 'bar': [1]}</b> )。ここで、foo および bar は物理ネットワークの名前で、これに対応する値は関連する <b>numa_nodes</b> のリストです。
<b>NeutronTunnelNUMANodes</b>	すべてのトンネル化ネットワークの NUMA アフィニティーを設定するのに使用します。
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。
<b>NovaComputeCpuSharedSet</b>	物理 CPU コアの一覧または範囲が、ベストエフォートのゲスト仮想 CPU リソースに使用されます (例: libvirt/QEMU のエミュレータースレッド)。たとえば、 <b>NovaComputeCpuSharedSet: [4-12,^8,15]</b> は、コア 4-12 の範囲 (ただし 8 を除く) および 15 を確保します。
<b>NovaComputeLibvirtType</b>	Libvirt ドメインの種別。デフォルトは <b>kvm</b> です。デフォルト値は <b>kvm</b> です。
<b>NovaComputeLibvirtVifDriver</b>	ネットワーク用の Libvirt VIF ドライバーの設定
<b>NovaComputeOptEnvVars</b>	オプションの環境変数の一覧
<b>NovaComputeOptVolumes</b>	マウントされるオプションのボリュームの一覧

パラメーター	説明
<b>NovaCronArchiveDeleteAllCells</b>	すべてのセルから削除されたインスタンスをアーカイブします。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsAge</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスをアーカイブする (Age)。削除されたインスタンスエントリをアーカイブする際の保持ポリシーを日数単位で定義します。0 は、シャドウテーブル内のその日以前のデータがパージされることを意味します。デフォルト値は <b>90</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsDestination</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Log destination)。デフォルト値は <b>/var/log/nova/nova-rowsflush.log</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsHour</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Hour)。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsMaxRows</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Max Rows)。デフォルト値は <b>1000</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsMinute</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Minute)。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsMonth</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Month)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsMonthday</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Month Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsUntilComplete</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Until complete)。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsUser</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (User)。デフォルト値は <b>nova</b> です。
<b>NovaCronArchiveDeleteRowsWeekday</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Week Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>NovaCronDBArchivedHour</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスをバックアップ不要な別のテーブルに移動する (Hour)。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>NovaCronDBArchivedMaxDelay</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスを別のテーブルに移動する (Max Delay)。デフォルト値は <b>3600</b> です。



パラメーター	説明
<b>NovaCronDBArchivedMinute</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスをバックアップ不要な別のテーブルに移動する (Minute)。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>NovaCronDBArchivedMonth</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスをバックアップ不要な別のテーブルに移動する (Month)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>NovaCronDBArchivedMonthday</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスをバックアップ不要な別のテーブルに移動する (Month Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>NovaCronDBArchivedWeekday</b>	cron ジョブが削除されたインスタンスをバックアップ不要な別のテーブルに移動する (Week Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>NovaDbSyncTimeout</b>	OpenStack Compute (nova) データベースの同期のタイムアウト (秒単位)。デフォルト値は <b>300</b> です。
<b>NovaDefaultFloatingPool</b>	Floating IP アドレスのデフォルトプール。デフォルト値は <b>public</b> です。
<b>NovaEnableDBPurge</b>	OpenStack Compute (nova) データベースでソフト削除された行をパージする cron ジョブを作成するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>NovaEnableNUMALiveMigration</b>	NUMA トポロジーインスタンスのライブマイグレーションを有効にするかどうかを定義します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NovalPv6</b>	OpenStack Compute (nova) の IPv6 機能を有効にします。デフォルト値は <b>false</b> です。
<b>NovaLibvirtMemStatsPeriodSeconds</b>	メモリー使用量の統計値表示期間 (秒単位)。ゼロまたは負の値の場合には、メモリー使用量の統計値表示が無効になります。デフォルト値は <b>10</b> です。
<b>NovaLibvirtRxQueueSize</b>	Virtio-net RX キューのサイズ。有効な値は、256、512、1024 です。デフォルト値は <b>512</b> です。
<b>NovaLibvirtTxQueueSize</b>	Virtio-net TX キューのサイズ。有効な値は、256、512、1024 です。デフォルト値は <b>512</b> です。
<b>NovaLibvirtVolumeUseMultipath</b>	ボリュームのマルチパス接続を有効にするかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NovaNfsEnabled</b>	OpenStack Compute (nova) の NFS バックエンドを有効にするかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。

パラメーター	説明
<b>NovaNfsOptions</b>	nova ストレージの NFS マウントオプション (NovaNfsEnabled が true の場合)。デフォルト値は <b>context=system_u:object_r:nfs_t:s0</b> です。
<b>NovaNfsShare</b>	nova ストレージをマウントするための NFS 共有 (NovaNfsEnabled が true の場合)
<b>NovaNfsVersion</b>	nova ストレージに使用する NFS バージョン (NovaNfsEnabled が true の場合)。NFSv3 は完全なロックをサポートしないため、NFSv4 バージョンを使用する必要があります。現在のインストールを破損しないように、デフォルトは以前のハードコーディングされたバージョン 4 です。デフォルト値は <b>4</b> です。
<b>NovaOVSBridge</b>	Open vSwitch で使用する統合ブリッジ名。デフォルト値は <b>br-int</b> です。
<b>NovaPCIPassthrough</b>	PCI パススルーのホワイトリストパラメーターの YAML リスト
<b>NovaPassword</b>	OpenStack Compute (nova) サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
<b>NovaPlacementAPIInterface</b>	placement API に使用するエンドポイントインターフェース。デフォルト値は <b>internal</b> です。
<b>NovaReservedHostMemory</b>	ホストプロセス用に確保されるメモリー。デフォルト値は <b>4096</b> です。
<b>NovaReservedHugePages</b>	NUMA ノード ID、ページサイズ (デフォルトの単位は KiB)、および確保されるページ数を表す有効なキーと値の一覧。たとえば、 NovaReservedHugePages: ["node:0,size:2048,count:64","node:1,size:1GB,count:1"] は、NUMA ノード 0 に 2 MiB のページを 64 ページ、NUMA ノード 1 に 1 GiB のページを 1 ページ、それぞれ確保することを意味します。
<b>NovaResumeGuestsShutdownTimeout</b>	ゲストがシャットダウンするのを待機する秒数。このパラメーターを 0 に設定すると、タイムアウトは発生しません (ゲストがシャットダウン要求に応答しない場合があるため、注意して使用してください)。デフォルト値は 300 秒 (5 分) です。デフォルト値は <b>300</b> です。

パラメーター	説明
<b>NovaResumeGuestsStateOnHostBoot</b>	コンピュートホストのリブート時に実行中のインスタンスを起動するかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>NovaSchedulerAvailableFilters</b>	OpenStack Compute (nova) がノードのフィルタリングに使用する利用可能なフィルターの一覧
<b>NovaSchedulerDefaultFilters</b>	ノードをフィルタリングするために OpenStack Compute (nova) が使用するフィルターアレイ。OpenStack Compute は、これらのフィルターをリスト順に適用します。フィルタリングのプロセスがより効率的になるように、最も制限の厳しいフィルターを最初に配置します。
<b>NovaSchedulerDiscoverHostsInCellsInterval</b>	この値は、セルに追加された新規ホストの検出をスケジューラーが試みる頻度 (秒単位) です。デフォルト値の <b>-1</b> は、定期タスクを完全に無効化します。OpenStack Bare Metal (ironic) を使用するデプロイメントには、このパラメーターを設定することを推奨します。デフォルト値は <b>-1</b> です。
<b>NovaSchedulerMaxAttempts</b>	インスタンスをデプロイする際のスケジューラーの最大試行回数。スケジューリング時に競合状態が発生しないように、一度にデプロイする予定のベアメタルノードの数以上に維持する必要があります。デフォルト値は <b>3</b> です。
<b>NovaSchedulerWorkers</b>	OpenStack Compute (nova) スケジューラーサービスのワーカー数。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>NovaVcpuPinSet</b>	仮想マシンプロセス用に確保する物理 CPU コアの一覧または範囲。たとえば、 <b>NovaVcpuPinSet: [4-12,^8]</b> は、コア 4-12 の範囲 (ただし 8 を除く) を確保します。
<b>NovaWorkers</b>	Compute の Conductor サービスのワーカー数。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>OvsDpdkSocketMemory</b>	NUMA ノードごとに割り当てるヒューズページメモリーの容量を設定します。目的の DPDK NIC に使用する PCIe スロットに最も近いソケットの使用が推奨されます。形式は "<socket 0 mem>, <socket 1 mem>, <socket n mem>" で、値は MB 単位で指定します。たとえば、"1024,0" となります。

パラメーター	説明
<b>QemuCACert</b>	このパラメーターは、qemu に使用する CA 証明書を指定します。このファイルは、デフォルト CA のパス (/etc/pki/qemu/ca-cert.pem) へのシンボリックリンクです。このパラメーターは、デフォルト (InternalTLSQemuCAFile パラメーターがベース) が望ましくない場合に使用すべきです。現在のデフォルトは、TripleO のデフォルト CA である FreeIPA を反映しています。これは、内部の TLS が有効な場合にのみ使用されます。
<b>StackUpdateType</b>	StackAction が UPDATE の場合に UPGRADE と UPDATE のケースを区別するための更新のタイプ (両方とも同じ stack アクション)
<b>UpgradeLevelNovaCompute</b>	OpenStack Compute アップグレードレベル
<b>UseTLSTransportForNbd</b>	true に設定して、EnableInternalTLS が有効な場合には、libvirt NBD の TLS トランスポートが有効となり、libvirt の関連するキーが設定されます。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>UseTLSTransportForVnc</b>	true に設定して、EnableInternalTLS が有効な場合には、libvirt VNC の TLS トランスポートが有効となり、libvirt の関連するキーが設定されます。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>VerifyGlanceSignatures</b>	イメージの署名を検証するかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>VhostuserSocketGroup</b>	vhost-user ソケットディレクトリーのグループ名。デフォルトは <b>qemu</b> です。vhostuser モードが <b>dpdkvhostuserclient</b> (デフォルトモード) の場合には、qemu により vhost ソケットが作成されます。デフォルト値は <b>qemu</b> です。

## 第17章 CLUSTERING (SAHARA) パラメーター

パラメーター	説明
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。
<b>SaharaPassword</b>	クラスタリングサービスおよびデータベースアカウントのパスワード
<b>SaharaPlugins</b>	クラスタリングが有効なプラグイン一覧。デフォルト値は <b>['ambari', 'cdh', 'mapr']</b> です。
<b>SaharaWorkers</b>	Clustering サービスのワーカー数を設定します。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。デフォルト値は <b>0</b> です。

## 第18章 OBJECT STORAGE (SWIFT) パラメーター

パラメーター	説明
<b>SwiftAccountWorkers</b>	Swift アカウントサービスのワーカー数。デフォルト値は <b>auto</b> です。
<b>SwiftCeilometerIgnoreProjects</b>	無視するプロジェクト名のコンマ区切りリスト。デフォルト値は <b>['service']</b> です。
<b>SwiftCeilometerPipelineEnabled</b>	<b>False</b> に設定してオブジェクトストレージプロキシの ceilometer パイプラインを無効にします。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>SwiftContainerWorkers</b>	Swift アカウントサービスのワーカー数。デフォルト値は <b>auto</b> です。
<b>SwiftEncryptionEnabled</b>	Swift 内の Data at Rest の暗号化を有効にするには、True に設定します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>SwiftHashSuffix</b>	リング内でマッピングを決定するためのハッシングを行う際にソルトとして使用するランダム文字列
<b>SwiftMinPartHours</b>	リバランスの後にリング内のパーティションを移動できるようになるまでの最小時間 (時間単位)。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>SwiftMountCheck</b>	ルートデバイスに誤って書き込まれないようにデバイスがマウントされているかどうかを確認します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>SwiftObjectWorkers</b>	Swift アカウントサービスのワーカー数。デフォルト値は <b>auto</b> です。
<b>SwiftPartPower</b>	Object Storage リングの構築時の Partition Power。デフォルト値は <b>10</b> です。
<b>SwiftPassword</b>	Object Storage サービスアカウントのパスワード
<b>SwiftProxyNodeTimeout</b>	<b>swift-proxy</b> からアカウント、コンテナ、オブジェクトサービスへのリクエストのタイムアウト。デフォルト値は <b>60</b> です。
<b>SwiftRawDisks</b>	Object Storage バックエンドに使用する追加の RAW デバイス (例: <b>{sdb: {}}</b> )。
<b>SwiftReplicas</b>	Object Storage リングで使用するレプリカ数。デフォルト値は <b>3</b> です。

パラメーター	説明
<b>SwiftRingBuild</b>	Object Storage リングを管理するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>SwiftRingGetTempurl</b>	リングのダウンロード元の一時的な Swift URL
<b>SwiftRingPutTempurl</b>	リングのアップロード先の一時的な Swift URL
<b>SwiftUseLocalDir</b>	リングの構築時に Object Storage サービスにローカルディレクトリーを使用します。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>SwiftWorkers</b>	Object Storage サービスのワーカー数。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。デフォルト値は <b>auto</b> です。

## 第19章 TELEMETRY パラメーター

パラメーター	説明
<b>AmqpNotifyAddressPrefix</b>	通知アドレスのプレフィックス
<b>AmqpRpcAddressPrefix</b>	RPC アドレスのプレフィックス
<b>AodhPassword</b>	OpenStack Telemetry Alarming (aodh) サービスのパスワード
<b>CeilometerEnablePanko</b>	Panko を有効にする必要があるかどうかを確認します。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>CeilometerMeteringSecret</b>	Telemetry サービスによって共有されるシークレット
<b>CeilometerPassword</b>	Telemetry サービスアカウントのパスワード
<b>CeilometerQdrEventsConfig</b>	イベントの通知パブリッシャーの設定。デフォルト値は <b>{'driver': 'amqp', 'topic': 'event'}</b> です。
<b>CeilometerQdrMetricsConfig</b>	メトリックの通知パブリッシャーの設定。デフォルト値は <b>{'driver': 'amqp', 'topic': 'metering'}</b> です。
<b>CeilometerQdrPublishEvents</b>	イベントを MetricsQdr サービスに送信するかどうかを定義します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>CeilometerQdrPublishMetrics</b>	Telemetry データを MetricsQdr サービスに送信するかどうかを定義します。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>CeilometerWorkers</b>	Telemetry サービスのワーカー数。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>CephClusterName</b>	Ceph クラスタ名。デフォルト値は <b>ceph</b> です。
<b>EnablePankoExpirer</b>	データベースからイベントを定期的に削除するには、panko expirer を有効にします。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>GnocchiArchivePolicy</b>	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) バックエンドで使用するアーカイブポリシー。デフォルト値は <b>low</b> です。



パラメーター	説明
<b>GnocchiBackend</b>	使用する OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) バックエンドの省略名。 <b>swift</b> 、 <b>rbd</b> 、 <b>file</b> のいずれかにする必要があります。デフォルト値は <b>swift</b> です。
<b>GnocchiCorsAllowedOrigin</b>	このリソースがリクエストの「元」ヘッダーで受け取るドメインと共有されるかどうかを示します。
<b>GnocchiExternalProject</b>	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) 内でリソースを作成したプロジェクトの名前。デフォルト値は <b>service</b> です。
<b>GnocchiFileBasePath</b>	ファイルドライバーを使用している場合に使うパス。これは、NFS またはフラットファイルを使用可能です。デフォルト値は <b>/var/lib/gnocchi</b> です。
<b>GnocchiIncomingStorageDriver</b>	受信するメトリックデータに使用するストレージドライバー。デフォルト値は <b>redis</b> です。
<b>GnocchiIndexerBackend</b>	使用する OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) インデクサーバックエンドの省略名。デフォルト値は <b>mysql</b> です。
<b>GnocchiMetricdWorkers</b>	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) のワーカー数。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。デフォルト値は、物理ノードにある仮想 CPU コア数と同じ数値です。
<b>GnocchiPassword</b>	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
<b>GnocchiStorageS3AccessKeyId</b>	S3 ストレージのアクセスキーの ID
<b>GnocchiStorageS3AccessSecret</b>	S3 ストレージのアクセスキーのシークレット
<b>GnocchiStorageS3BucketPrefix</b>	S3 ストレージのバケットのプレフィックス
<b>GnocchiStorageS3Endpoint</b>	S3 ストレージのエンドポイントの URL
<b>GnocchiStorageS3RegionName</b>	S3 のリージョン名
<b>GnocchiStorageSwiftEndpointType</b>	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) が swift にアクセスするエンドポイントの種別を変更するために設定します。デフォルト値は <b>internalURL</b> です。

パラメーター	説明
<b>ManageEventPipeline</b>	event_pipeline.yaml を管理するかどうか。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>ManagePipeline</b>	pipeline.yaml を管理するかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>ManagePolling</b>	polling.yaml を管理するかどうか。デフォルト値は <b>False</b> です。
<b>MetricProcessingDelay</b>	メトリックの処理の遅延間隔。デフォルト値は <b>30</b> です。
<b>MetricsQdrPort</b>	qdrouterd が接続を受け入れるサービス名またはポート番号。この引数は、数値の形態が使われていても文字列でなければなりません。デフォルト値は <b>5666</b> です。
<b>NotificationDriver</b>	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は <b>messagingv2</b> です。
<b>NumberOfStorageSacks</b>	作成するストレージサックの数。デフォルト値は <b>128</b> です。
<b>PankoEventTTL</b>	イベントがデータベースに保管される秒数。デフォルト値は <b>86400</b> です。
<b>PankoExpirerHour</b>	cron ジョブがイベントデータをデータベースから削除する (Hour)。デフォルト値は <b>0</b> です。
<b>PankoExpirerMinute</b>	cron ジョブがイベントデータをデータベースから削除する (Minute)。デフォルト値は <b>1</b> です。
<b>PankoExpirerMonth</b>	cron ジョブがイベントデータをデータベースから削除する (Month)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>PankoExpirerMonthday</b>	cron ジョブがイベントデータをデータベースから削除する (Month Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>PankoExpirerWeekday</b>	cron ジョブがイベントデータをデータベースから削除する (Week Day)。デフォルト値は <b>*</b> です。
<b>PankoPassword</b>	Panko サービスのパスワード

パラメーター	説明
<b>PipelinePublishers</b>	pipeline.yaml に追加するパブリッシャーの一覧。コレクターが使用される場合には、notifier:// publisher でこの値をオーバーライドします。オーバーライドを有効にするには、ManagePipeline を true に設定します。
<b>SnmpdReadonlyUserName</b>	すべてのオーバークラウド上で実行され、読み取り専用のアクセス権のある SNMPd のユーザー名。デフォルト値は <b>ro_snmp_user</b> です。
<b>SnmpdReadonlyUserPassword</b>	すべてのオーバークラウド上で実行され、読み取り専用のアクセス権のある SNMPd のパスワード

## 第20章 時刻に関するパラメーター

パラメーター	説明
<b>EnablePackageInstall</b>	デプロイ時にパッケージのインストールを有効にするには true に設定します。デフォルト値は <b>false</b> です。
<b>MaxPoll</b>	アップストリームのサーバーが NTP メッセージをポーリングする最大の間隔を 2 の累乗の秒数で指定します。設定可能な値は 4 から 17 です。デフォルト値は <b>10</b> です。
<b>MinPoll</b>	アップストリームのサーバーが NTP メッセージをポーリングする最小の間隔を 2 の累乗の秒数で指定します。最小のポーリング間隔のデフォルトは 6 (64 秒) です。設定可能な値は 4 から 17 です。デフォルト値は <b>6</b> です。
<b>NtpburstEnable</b>	全 NTP ピアに対して iburst オプションを有効にするかどうかを指定します。iburst が有効な場合には、NTP サーバーに到達できなければ、NTP が 1 つではなく 8 つのパッケージのバーストを送信します。これは、初期同期を迅速化するために設計されています。デフォルト値は <b>True</b> です。
<b>NtpServer</b>	NTP サーバーの一覧。デフォルト値は <b>['pool.ntp.org']</b> です。
<b>TimeZone</b>	オープンクラウド上で設定するタイムゾーン。デフォルト値は <b>UTC</b> です。